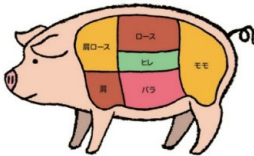


令和7年度 育種改良・登記登録部会 活動報告

昭和23年から始まった豚の登記登録事業 令和8年で78年目を迎えました。
国から承認を受け、歴史ある我が国の豚の登記登録事業と国産純粋種豚の改良事業を担う部会です。

最新情報➡遺伝資源保存指定種豚場 令和8(2026)年度認定状況



部会委員紹介

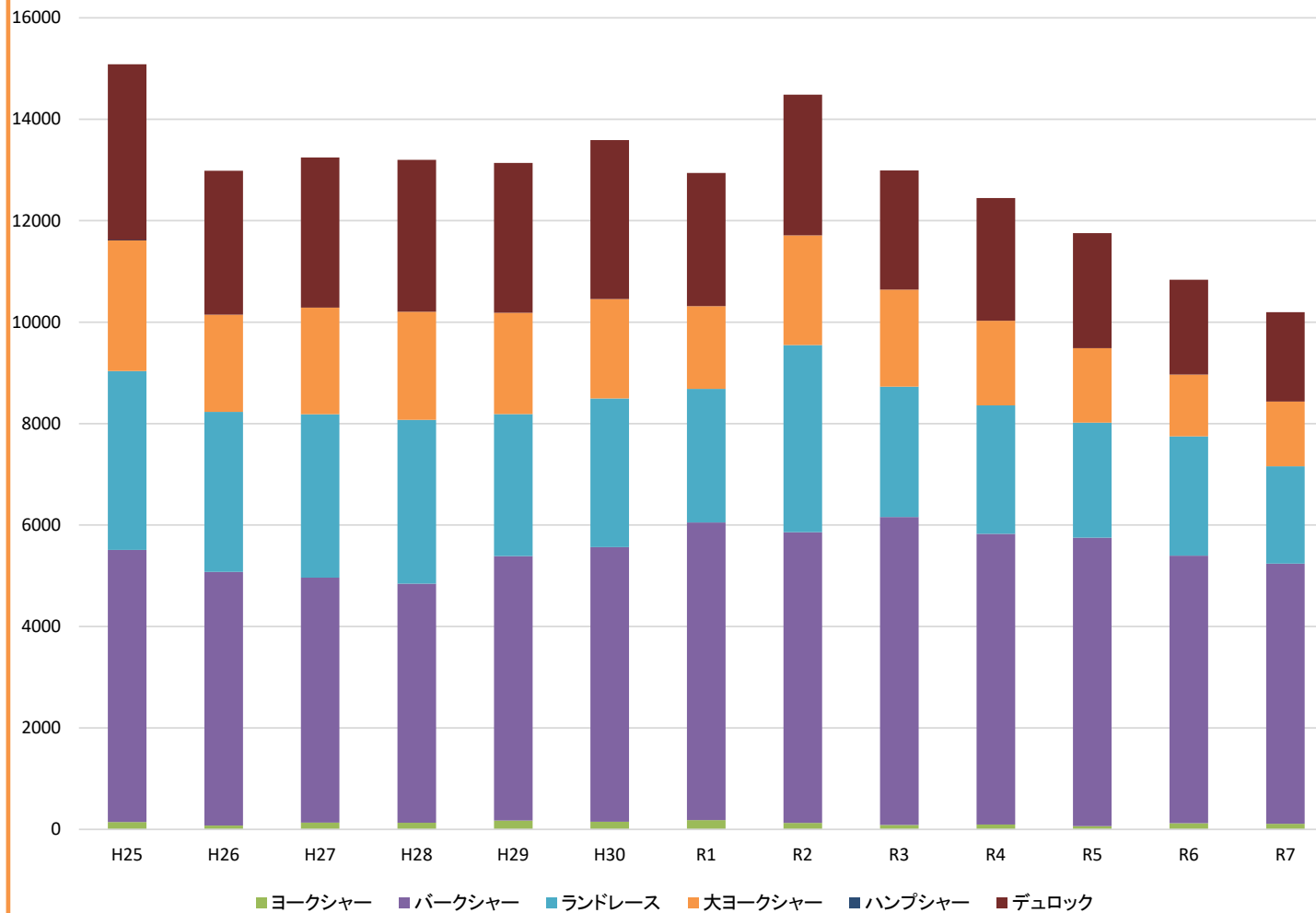
	役 職	氏 名	所 属
宮崎県	担当副会長	宝尺 実正	有限会社 ピッグセンター宝尺
長崎県	部会長	中村 臣助	株式会社 舞豚
静岡県	副部会長	桑原 康	農事組合法人 富士農場サービス
東京都	委員	二階堂 聡	全農畜産サービス 株式会社
千葉県	委員	山本 拓	豊橋飼料 株式会社 種豚センター
東京都	委員	木全 誠	株式会社 シムコ
富山県	委員	木島 敏昭	有限会社 木島農場
宮崎県	委員	相馬 善弘	株式会社 ファームテック

	都道府県	農場名		都道府県	農場名
1	北海道	農事組合法人富士農場サービス 恵庭農場	19	千葉県	有限会社 佐々木農場
2	北海道	株式会社平田牧場 古平農場	20	千葉県	豊橋飼料株式会社 種豚センター
3	青森県	株式会社 やまはた	21	新潟県	株式会社 山田B. F
4	岩手県	全農畜産サービス株式会社 東日本原種豚場	22	富山県	有限会社 木島農場
5	岩手県	有限会社 龍泉洞黒豚ファーム	23	富山県	株式会社 シムコ 八尾GGPセンター
6	岩手県	農事組合法人富士農場サービス 白鳥農場	24	静岡県	有限会社 TOPICS
7	宮城県	株式会社 サンエスブリーディング 丸森農場	25	静岡県	農事組合法人富士農場サービス
8	宮城県	星種豚場	26	岡山県	全農畜産サービス株式会社 岡山AIセンター
9	宮城県	株式会社シムコ 岩出山事業所	27	愛媛県	有限会社 協栄ファーム
10	宮城県	伊藤種豚場	28	熊本県	淋種豚場
11	宮城県	株式会社 サイボクファーム	29	熊本県	全農畜産サービス株式会社 西日本原種豚場
12	秋田県	株式会社シムコ 大館GGPセンター	30	宮崎県	有限会社 木上種豚場
13	秋田県	全農畜産サービス株式会社 秋田大仙SPF豚センター	31	宮崎県	有限会社 ピッグセンター宝尺
14	栃木県	有限会社 星種豚場	32	宮崎県	株式会社ファームテック えびの種豚場
15	群馬県	井出種豚場	33	宮崎県	株式会社 日高スワイン
16	群馬県	有限会社 山崎種豚場	34	鹿児島県	南日本畜産 株式会社
17	埼玉県	株式会社 サイボク 鳩山牧場	35	鹿児島県	株式会社シムコ 鶴田事業所
18	千葉県	株式会社 堀江ファーム			

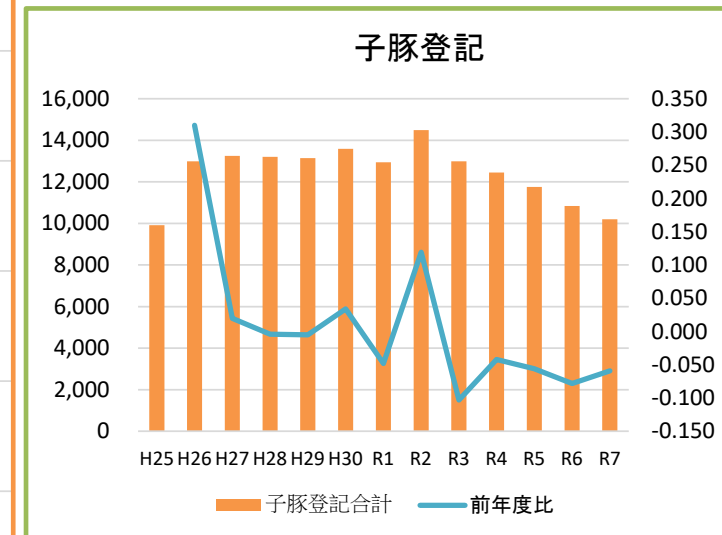
※認定状況は令和8年4月1日現在の状況です

子豚登記の品種別内訳の変遷

～バークシャー、ランドレース、大ヨークシャー、デュロック、ヨークシャーの順に多く、バークシャーについては平成25年から全体の3分の1から2分の1の実績～

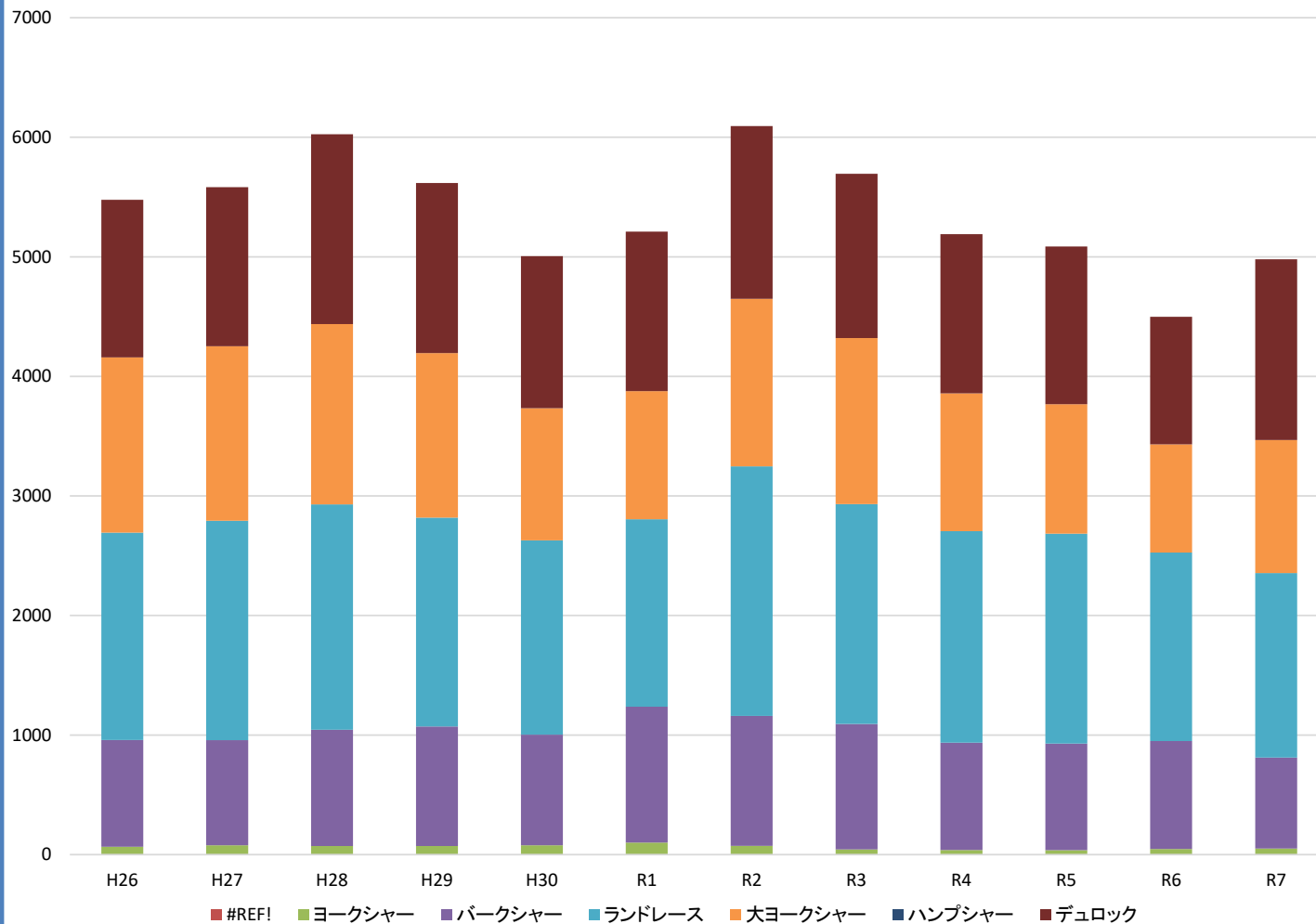


バークシャー種は毎回トップの登記実績です。また、平成25年度から令和7年度まで5,000～6,000頭の実績を維持しています。

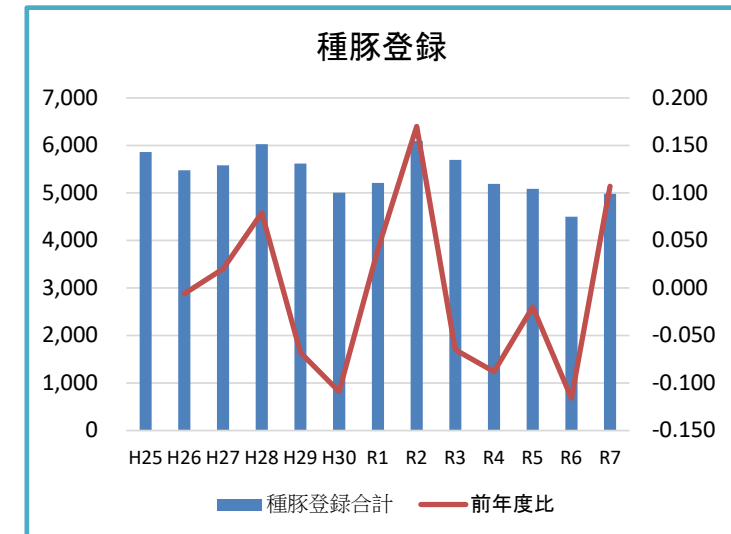


種豚登録の品種別内訳の変遷

～ランドレース、大ヨークシャーとデュロックがほぼ同数で推移、、パークシャー、ヨークシャーと続きます～



ランドレースと大ヨークシャーがツートップを占める背景には、我が国の特徴ある肉豚生産の母豚はLW、もしくはWLであるという背景だと考えられます。また、止め雄としてデュロック種が多く使われていることも、この件数実績から分かります。

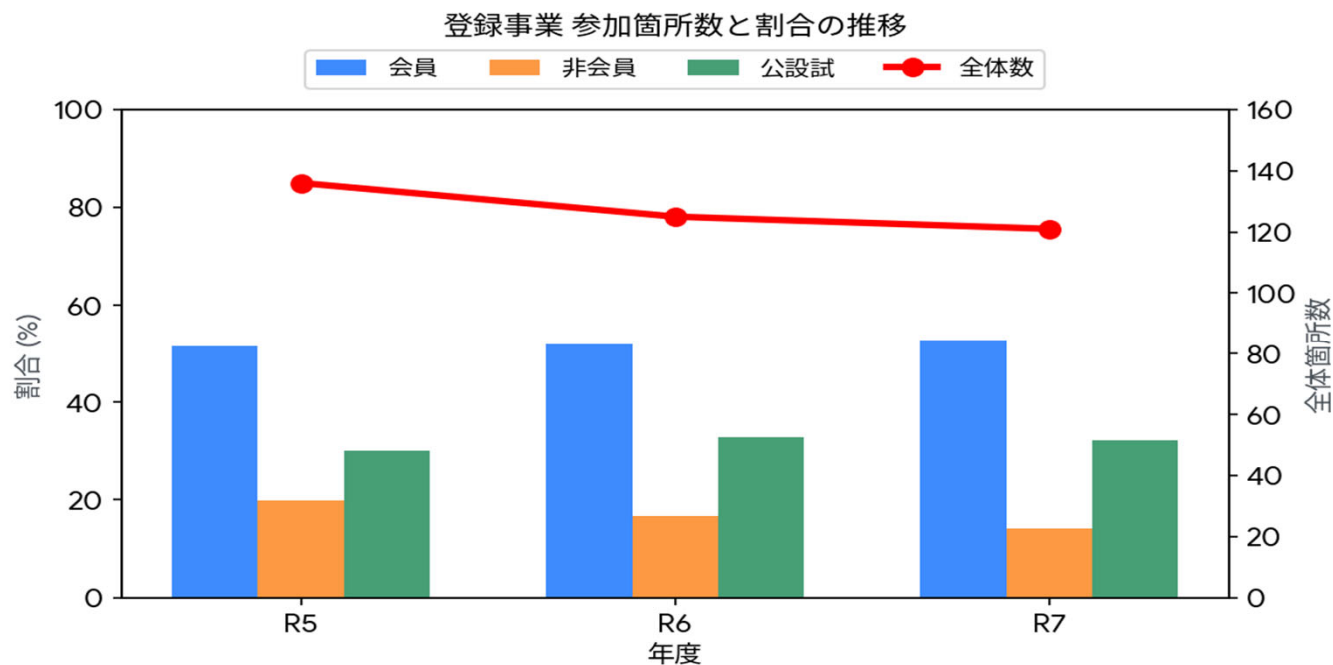


令和7年度 種豚登録・子豚登記・一代雑種豚血統証明 件数トップ5

	1	頭	2	頭	3	頭	4	頭	5	頭
種豚登録	鹿児島県	939	岩手県	879	秋田県	533	熊本県	519	静岡県	506
子豚登記	鹿児島県	5,018	岩手県	988	秋田県	716	熊本県	434	栃木県	399
一代雑種豚血統証明	鹿児島県	488	宮崎県	215	栃木県	113	宮城県	96	茨城県	91

登録事業参加者の内訳割合

～会員が半数以上の参加率。我が国の国産純粋種豚の維持管理改良体制は日本養豚協会の会員によって支えています～



公設試とは国や都道府県の試験研究機関、学校などの教育機関を指します。現行、彼らは日本養豚協会の会員になることができない規程のため、みなし会員として扱っています。

よって彼らを会員と合計すると登録事業の参加者80%以上が日本養豚協会の会員と言えます。参加者数は少しずつ減少していますが、この参加者内訳割合はほぼ変わらず推移しています。

令和7年度 主な活動報告

(1) 遺伝子(SNP)情報や、肉質の成分調査データを用いた国産純粋種豚の維持改良手法体制について →国産純粋種豚改良協議会会員としてオールジャパンでの取り組み

(2) 新たな改良手法『豚認証集団に関する証明規程』制定 →登記登録事業の安定継続及び推進のための手法の検討と意見交換・より多くのデータ収集手法の検討

(3) 四半期ごとの豚の遺伝的能力評価公表

(4) 種豚の維持改良に関する講習会の実施と講演会などでの事例発表、講演

(5) 豚の人工授精普及に対し、問題点や課題の検討と改善対策への取り組み →令和7年度も国内における豚精液の円滑流通、安全な採取・発送体制について国・業者とAIセンターで話し合いや意見交換を積極的に実施しました。

(6) 国産純粋種豚の飼料利用性及び腸内細菌情報の調査研究による維持改良手法体制について

これらのことを育種改良・登記登録部会単独だけではなく、農水省、家畜改良センター、農研機構や都道府県の試験研究機関、学識経験者やグループと共に御教示など受けながら取り組んでいます。

令和7年度 種豚登録講習会

開催日	開催名	開催場所	参加人数	内容
2025/7/25	東日本地区種豚登録講習会	宮城県仙台市	34名	卓上講習
2025/7/28	埼玉県立熊谷農業高等学校 種豚登録講習会	埼玉県熊谷市	24名	卓上講習 生体審査実習
2026/2/17 ~2/18	西日本地区種豚登録講習会	愛知県名古屋市 愛知県豊橋市	24名	卓上講習 生体審査実習
2026/3/11	北海道地区種豚登録講習会	北海道札幌市	13名	卓上講習

令和7年度 育種改良・登記登録部会が出席などした会議・研修会等

開催日	開催名	開催場所	参加人数	内容
2025/8/1	宮崎県指定種豚場総会・研修会	宮崎県宮崎市	14名	講演
2025/9/22	豚の登録業務委託団体長会議	東京都台東区	48名	研修・意見交換
2025/12/25	国産純粋種豚改良協議会 通常総会	京都府京都市	75名	研修・意見交換
2026/1/29	第22回 京都府豚肉品質向上研修会	京都府京都市	59名	研修・意見交換



令和8年度 活動計画

(1)国産純粋種豚の育種改良に向けた国産純粋種豚改良協議会ロードマップによる取り組み始動→家畜改良増殖目標の達成とプラスαを目指す

(2)豚認証集団に関する証明規程 令和8年4月1日施行 →

(3)豚の遺伝的能力評価の活用で国産純粋種豚の能力向上のスピードアップを図る
⇒現場での実用化促進のための研修会を開催

(4)つなぎ評価の推進による脚蹄改良の強化

(5)スムーズな豚精液流通と人工授精の普及発展について検討

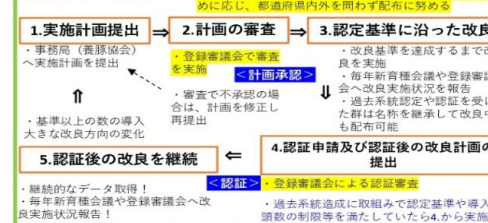
(6)種豚登録講習会・教育機関への出張授業の実施⇒次世代ブリーダーの育成

新たな認証制度の基準の作成について

【現状と課題】

- ・ 系統造成の現状は予算規模の縮小や施設の老朽化等により新規系統造成や系統の維持が減少傾向。また、時代の流れや農家のニーズも多様化
- ・ そのため、外部導入・規模縮小により系統維持を中止する機関、規模の小さい集団を維持する機関が出現
- ・ 円安や世界的な気候変動、情勢不安また豚熱等の疾病問題により国内外の遺伝資源の減少と国内の改良基盤の縮小により、国内純粋種豚改良の停滞を懸念

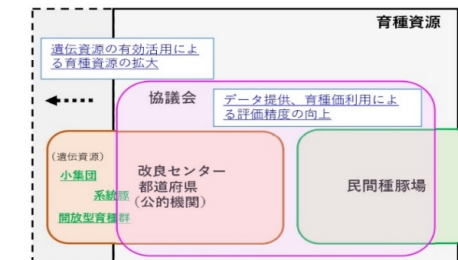
【取り組みの流れ】



【懸念事項】

- ・ 世代更新のタイミングや系統構造が多様なため、育種価等の推定精度の問題や結果の利用方法が難しい
- ・ 認証後も継続的な改良が必要なため、データ収集等が長期化
- ・ 外部から素材を再導入する際、群内の血縁交流を図りながらどのように育種改良するか十分に検討が必要
- ・ 認証群でも体型や品質等表型的な差が出る可能性
- ・ 認証後も継続的な改良が必要なため、系統維持よりも育種に関する人材確保や取組み体制がより重要

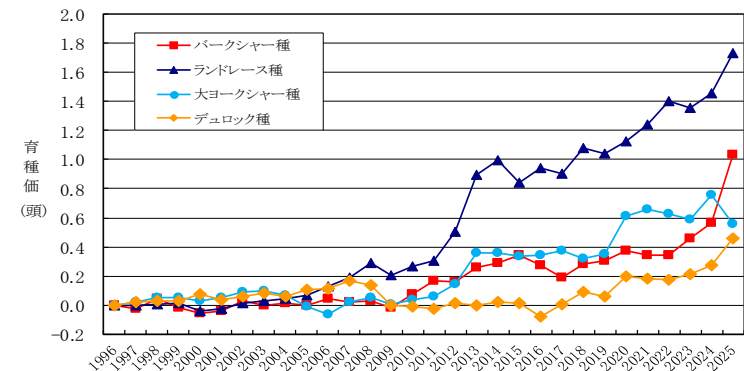
【認証制度による国内改良基盤のイメージ】



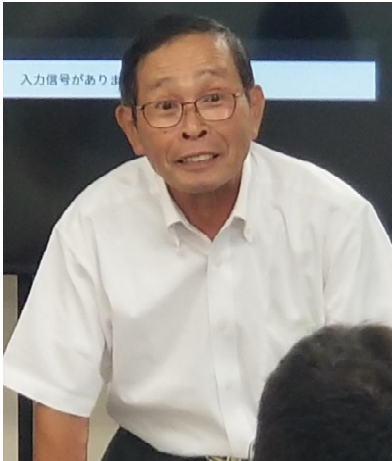
【認証制度の国産純粋種豚改良協議会におけるメリット】

- 協議会参加機関の拡充
改良の取組当初や外部導入直後など多様な状況で育種価を利用する際、安定的に評価できる協議会の育種価がより有用
- 協議会の育種価ランキングは、外部導入において有用
- 育種価の推定精度向上
認証制度では継続的なデータ収集が必要なため、協議会データ拡充とそれに伴う育種価の推定精度向上が期待
- 遺伝資源の保全
系統造成以外の純粋種豚集団が維持される体制が構築

国内改良基盤の強化、拡大



宝尺担当副会長からJPPA会員の皆様へ



全国にあった指定種豚場協会ですが、現在は宮崎県のみになってしまいました。宝尺担当副会長は宮崎県指定種豚場協会の会長としても国産純粋種豚の維持改良推進を先導されています!!

皆さん、人間はおなかが空いたら何か食べたくになります。美味しいものが食べたくになります。美味しいものを食べると元気が出ます。最近は24時間、いつでも食べ物を手に入れることができます。

でも考えてみてください。この美味しい食べ物はふって湧いて出来たものではないのです。豚肉もそうです。私達、養豚生産者が日々心を込めて豚を飼育し、生産を行っているから豚肉料理がいつでも食べられるのです。

私達は日本人の胃袋を支える産業に従事していることを誇りに思っています。そういった姿を次世代に見せていくことで多くの後継者を育成し、世界に誇る我が国の特徴ある豚肉を生産できる体制を安定して継続させるため、この道何十年の私達世代は常にアドバイスとフォローをできる体制を取っていかうではありませんか。引退するのではなく、次世代を指導し、見守る側への世代交代について、我が育種改良・登記登録部会も動き出しています。

そして皆さん、当然のことですが種が無ければ芽が出ません。我が国の特徴ある豚肉生産を安定継続させる体制には、私達ブリーダーが重要な存在であり、私達は常に不断的努力を継続していることをどうかご理解いただきますよう、よろしくお願いいたします。

令和8年(2026年)6月30日 宝尺実正

『国産純粋種豚改良協議会』

設立当初より会員及び事務局として運営に参加しています。

(令和8年度で11周年を迎えます)

我が国の国産純粋種豚改良のスピードアップと多様な豚肉生産のニーズにこたえるための国産純粋種豚維持改良に、**官民一体オールジャパン**で取り組む国産純粋種豚改良協議会に参加。



登録第6533483・6533484号

令和7年度は国産純粋種豚認定銘柄豚7銘柄にて試食&アンケートを実施しました。(2025年11月29日。日本養豚協会の俺たちの豚肉を食ってくれイベントの一部分ブースをお借りして開催。)

1銘柄約50食分の焼肉(味付け無し)試食を配布し、アンケート回答を依頼。回答者のなかからから抽選で10名に認定銘柄豚の精肉セットをプレゼントしました。

このアンケート結果は国産純粋種豚改良協議会ホームページにて是非ご覧ください。



認定第10号「くまもとの赤ぶた」を生産している熊本県立熊本農業高等学校から養豚担当の学生さんもイベントに駆けつけてくれました。



「国産純粋種豚改良協議会」
平成28年3月31日設立。

現在、民間生産者21、行政機関(都道府県試験場)15、試験研究機関・関係団体7、学識経験者5名、改良アドバイザー3名、オブザーバー3名で構成。

公式HP:<https://buta-kairyo.jp/>